

# 天地の奥に

(昭和十八年寮歌)

橋爪秀雄君 作歌

池田政晴君 作曲

一

天地の奥に征く吾や  
弧杖無限に旅立ちて  
溪巒はるか訪ね来し  
榆陵の宿や三春の  
旅にしあれどそは深き  
噫魂のふるさとか

二

四大も夢む幌のさと  
歌の心を温めれば  
穠り床しきアカシヤの  
花灰白き憂あり  
夏宵の霞霽びきて  
月皎々の滄海をゆく

三

大空風に咽ぶよひ  
暮鐘は低く漂ひて  
荒野は凋落の悲歌に泣く  
栄枯は移る秋の日の  
秋思の歩み運ぶ夜半  
久遠の星を仰がずや

四

高き理想は人の世を  
人の世と生く佗しさに  
坤球鳴りて吹雪き狂ふ  
孤高の峯に伏する今  
浮生の夢は消え果てて  
心虚しき歓喜よ

五

北溟春は浅けれど  
森がけ清く黄花咲き  
雲雀は高く空に入り  
新生の合唱野に満てり  
古衣を重ねる日は逝いて  
時乾坤に春よ立つ

六

いざ浩歌はなん天壤の  
栄ゆる時ぞ益荒男の  
事ふる道は烈しかる  
今宵祭の聖き火に  
尊き誓ひ立てよかし  
興亡分るる秋なれば